

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第1回上越市歯科保健計画策定委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市歯科保健計画の策定について（公開）
- (2) 歯科保健の現状と課題、今後の方向性について（公開）
- (3) その他（公開）

3 開催日時

令和5年7月13日（木） 午後3時25分から

4 開催場所

上越保健センター2階 集団指導室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：10名中 9名出席

黒田 陽、 新部 洋史、 俵木 修、 片海 正明、 神戸 正人、
矢富 政則、橋本 ヒデ子、 樋口 聖子、 室 美南

・事務局：小林健康福祉部長

森高齢者支援課係長、 小出国保年金課係長、 長澤幼児保育課保健師

長、

加藤学校教育課指導主事

田中健康福祉部参事、 柳澤統括保健師長、 岩野上席保健師長、

小黒保健師長、 浅野主任、 渡部保健師

8 発言の内容

【開会】

(1) あいさつ 小林健康福祉部長

(2) 委員長の選任

委員長に新部委員を選出

(3) 議事

(事務局が、資料1～4について説明)

【新部委員長】

資料1、資料2について、質疑を伺う。確認・・・(特になし)

【新部委員長】

資料3、資料4について、それぞれの立場での考えや意見をお伺いする。

【神戸委員】

自分は小児歯科専門であるが、昔に比べて歯周病は多分減少していると思う。それに対して、食べ方や食べさせ方というのが蔑ろにされているように感じる。小児歯科学会等で色々と勉強しているが、今皆さんが子供たちの食べ方について、どのぐらいの知識を持っているか。むし歯や歯周病の方ばかりウェイトを置いていて、なかなかそういうところに着眼されていない感じがする。

口腔機能の発達についても話を聞くが、歯並びは食べ方一つで大きく変わってきていると小児歯科学会で話が出ている。学校や保育園・幼稚園等で、むし歯や歯周病だけではなく食べ方や箸の持ち方について、話や勉強をする機会があればいいと考えている。

【岩野上席保健師長】

乳幼児健診から小中学校まで携わる専門職として、離乳食の時期は保護者へ咀嚼に関する指導を行っているが、神戸委員が話されたような専門的な知識の部分はまだまだ足りないため、歯科医師からご助言をいただきながら進めたいと思う。現在の歯科保健計画では、食習慣の形成や咀嚼等の口腔機能の獲得を目標に設定しており、次期計画の中にも引き続き盛り込んでいきたいと考えている。

【樋口委員】

園における4歳児の虫歯予防教室の際、歯や唇があっても、口腔機能が整っていないとしっかり飲み込むことができないと保護者へ伝えている。口呼吸や歯列にも関係してくることから、真剣にメモを取る保護者もいる。

【俵木委員】

先ほど神戸委員が言いたかったのは、基本方針の中に「食習慣の形成や咀嚼等の口腔機能の獲得」という項目があるにも関わらず、むし歯や歯周病、歯肉の病気の部分にしか成果と課題のポイントがないという事だと理解する。

むし歯や歯肉炎の有無は点検してきたが、咀嚼等の口腔機能の獲得はどういう方法で評価するのか。「年齢に対してうまく食べることができない」等を判定する方法が今、私の中ではイメージがない。方法から探っていないと、成果が出ているのかどうか評価できないのではないかと。

【岩野上席保健師長】

今回の資料に掲載している指標は、検査の結果等、数字が取れるものとしている。俵木委員が仰る通り、噛む力を客観的に判定する方法が歯科健診の中にある。主観的なもので評価してよいのか、また、次期計画の中にどのような表現で盛り込んでいったらよいのか、委員の方々と相談して進めていきたい。

【新部委員長】

成人も高齢者もむし歯と歯肉炎がメインになっているが、全身疾患との関連性が結構ある。糖尿病の人は歯周病になりやすいことや、歯周病と糖尿病・全身疾患との関連性についての啓発も盛り込むとよいのではないかと考える。

【岩野上席保健師長】

健康増進計画においてもその関連性について議論しているところであり、参考にしていきたい。

【黒田委員】

私は、上越市健康づくり推進協議会に出席した。生活習慣の改善に関して、栄養・食生活や飲酒、禁煙、身体活動・運動といった項目があるが、それを実行するには予算が必要だと思ふ。

食生活に関しては歯科医師が求めていることであるが、重点項目を作るのは難しいと思ふ。

上越市の成人歯科健診事業、後期高齢者の歯科健診事業、乳幼児の健診は素晴らしい。個人的には、成人歯科健診に 30 歳という年齢を一つ増やしたらよいのではないかと考える。30 歳となると、会社を起業する人も出てきたり、持病が発生するような年齢。20 歳よりも 30 歳の方が人生の起点になるかもしれないと思ふ。

【岩野上席保健師長】

今後、職域の健康診断の中に歯科健診も含める案が出始めてきている。本計画は今後 12 年間の計画になるため、どのような方法で実施していけるかを含め検討したい。

【片海委員】

樋口委員から口呼吸の話が上がったが、鼻炎持ちの子どもが結構いて、鼻が詰まることにより、口でしか呼吸ができず、それが心不全という悪循環を引き起こすというのがある。可能ならば、鼻炎の児童が耳鼻咽喉科に受診して、持病を持っているのか、歯磨きができているのか、指しゃぶり等の特殊な理由で口呼吸になっているのか、家系の問題なのかを内科と連携して統計を取り、それを歯科医師も知ることができればよいのではないかと考える。

高齢者の指標にある、食事が食べづらくなった人たちは、今どの程度の物を食べられて

いるのか。ほんの少しだけ固い食べ物はどうか、通常食が食べられているのか、菓物をきちんと食べられているのか。もしくは、もう軟食の人もいるのか。どの程度食べられないのか、というのを知れると、早めに口腔機能の低下予防対策ができるのではないか。

【橋本委員】

資料3の「過去1年間に歯科健診を受診した人」が、平成28年から令和4年にかけて大きく減少している。ちょうどコロナ禍に入り、健診を受けた人が減少したのかと見受けられるが、減少した原因をどう捉えているか。

私自身も、定期的に健診や治療で歯科医院に通っているが、やはりコロナ禍になってからは歯科医院の受入れ患者数もセーブされていると感じたり、なかなか予約が取れない状況にあった。そのようなことと関連して受診者が減少しているのか、また、今後これを改善するための対策があれば、聞かせてほしい。

先ほど子供たちの食の話や、口腔機能の獲得に関する話があった。自分は今、高校生に関わっているのだが、野菜を食べない子が多い。それは咀嚼ができないから食べないのか。食べないから咀嚼もうまくいかず、むし歯にも歯周炎にもなりやすいのではないか。ただの好き嫌いかと思っていたが、委員の方の話を聞き、咀嚼との関連があるのではないかと感じた。歯科医師はどのように認識されているのかお聞きしたい。

【小黒保健師長】

過去1年間に歯科健診を受診した人については、資料4の指標の推移を見ると、コロナが流行していた令和2年～3年のあたりは受診した人の割合が一番低くなっている。やはりコロナの影響があると思う。今後については、どのようにしたら市民が歯科医院に受診し、定期的に通い続けることができるのか考えていきたい。

【岩野上席保健師長】

現在、健康づくり推進課では、自分の健康に関心を持っていただくことを目的とした健康づくりポイント事業があり、その中に歯科健診の受診も項目に入っている。歯科健診もポイントになることを健康診査受診者や結果説明会の参加者へ啓発していきたい。

【片海委員】

食の好き嫌いについて話があったが、小さい頃の離乳食も影響していると考えている。味だけでなく、食感やにおい、食べさせ方など、成長段階でのトラブルによって食わず嫌いになっていくと考える。成長の過程で食べるきっかけがあり、食べた時に美味しかった、という経験が得られれば、好き嫌いがなくなっていくのではないか。

【新部委員長】

歯並びを見ていると、口の中はそれほど変わっていない。中学生・高校生で歯石の付き

やすい人は、柔らかい物ばかり食べているなど感じる。基本的に、世の中にあふれている食べ物が影響しているのも大きいと思う。根拠は無いですが、野菜を食べた方が歯石が付きにくいのは間違いないと思う。

【室委員】

乳幼児、保育園、小中学校、高校までは歯科健診をしており、健康教育もあると思うが、大学・専門学生や社会人になると公的な予防対策がない。今年度2件の事業所からデンタルケアに関する講座依頼があった。参加者は、学校で聞いた以降、歯の磨き方やケアの仕方について聞いておらず、適当にやっている人が多かったため、このような対象への対策も保健所として検討する。

なぜ歯科受診をしないのか聞くと、「行かなくていいや」、「気になるところがないから大丈夫」と返事があり心配である。高校生以降、大学・専門学生、働き盛り世代の対策を考えていきたい。

【岩野上席保健師長】

次回の委員会の開催は9月28日を予定している。

これで、令和5年度第1回上越市歯科保健計画策定委員会を終了する。

9 問合せ先

健康福祉部健康づくり推進課 健診・相談係

TEL : 025-520-5842

E-mail : kenkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別途の会議資料も併せてご覧ください。